

センター全体の活動報告

センター全体の活動一覧

月 日	活 動 報 告
5月10日	第一回合同例会
5月18日	関西大学教育後援会にて展示会（センターの活動紹介・「豊臣期大坂図屏風」複製・牧村史陽氏旧蔵古写真など）
5月28日	第5回ワークショップ「紙芝居は楽しいぞ！」
6月17日	第一回祭礼遺産研究例会
6月30日	第一回歴史資料遺産研究例会
7月3日	第7回NOCHSレクチャーシリーズ「なにわの食文化～「天下の台所」からみる日本食～」
7月4日	第三回「豊臣期大坂図屏風」研究会
7月7日	第一回学芸遺産研究例会／第一回生活文化遺産研究例会
7月12・ 19・26日	関西大学ミュージアム講座
7月22～23日	明日香村合宿（関西大学飛鳥文化研究所）
8月18～23日	国際シンポジウム「魅惑の探訪、豊臣期の大坂—エッゲンベルク城で再発見された大坂図屏風—」および「豊臣期大坂図屏風」現地調査（オーストリア・グラーツ市）
10月2日	杭全神社総合調査（予備調査）
10月5日	地域連携企画第4弾「平野をさぐる」関連企画「大阪を探検しよう！」
10月17日	文化遺産学交流会「東北学となにわ・大阪文化遺産学」
10月18日	第5回文化遺産学フォーラム「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」
10月23日	第四回「豊臣期大坂図屏風」研究会（大阪城天守閣）
10月26日	地域連携企画第4弾「平野をさぐる」
10月30日～ 11月1日	文化遺産視察（山形県・宮城県）
11月21日	第五回「豊臣期大坂図屏風」研究会
11月22日	国際シンポジウム「新発見「豊臣期大坂図屏風」」（関西大学東京センター）
12月18日	第二回歴史資料遺産研究例会
12月20日	第二回生活文化遺産研究例会
1月14日	外部評価委員会
1月19日	第二回学芸遺産研究例会／第二回合同例会
1月22日	第二回祭礼遺産研究例会
3月7日	文化遺産学交流会「神戸大学人文学研究科地域連携センターと関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター」
3月14日	第6回ワークショップ「サロン・ド・西尾家—吹田の文化遺産—」

文化遺産学フォーラム

- ・第5回「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」
日時：平成20年10月18日
会場：関西大学千里山キャンパス第1学舎1号館千里ホール
参加者数：81名

近年、文化的景観などの観点で注目されている「水と文化遺産」をテーマに、今年度のセンターの方針である「交流」にもとづき、「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」と題してフォーラムを開催した。

基調講演では、河内厚郎氏が淀川を通じて、水都と呼ばれる大阪の歴史を、菊地和博氏が最上川舟運による上方文化と山形文化の交流について概観した。高橋センター長を加え、藪田総括プロジェクトリーダーの進行によるパネルディスカッションでは、「水と文化遺産」に関わる問題点が指摘され、今後の取り組みなどが議論された。

フォーラム終了後には、文化遺産体験として、関西大学落語大学によって、大阪を流れる大川を舞台にした落語「遊山船」が演じられた。



パネルディスカッション

ー研究員)

第2部：「留学生の見た平野」

昨年度に引き続き、大阪市平野区で地域連携企画を開催した。第1部では、杭全神社の法楽連歌会の復興や祭礼、戦国時代の平野の歴史について鼎談した。第2部では、関連企画で行ったフィールドワークの感想を関西大学の留学生9名が発表した。会場には、フィールドワークの際に撮影した写真が展示され、当日の参加者による投票で選ばれた「平野賞」や「なにわ賞」などが贈られた。



三氏による鼎談



留学生の発表

地域連携企画

- ・第4弾：「平野をさぐる」
日時：平成20年10月26日
会場：杭全神社瑞鳳殿（大阪市平野区）
参加者数：59名
第1部：鼎談「杭全神社と平野のはなし」
藤江正謹氏（杭全神社宮司）
鶴崎裕雄氏（帝塚山学院大学名誉教授・センター研究員）
北川 央氏（大阪城天守閣研究副主幹・センタ

*関連企画「大阪を探検しよう！」

- 日時：平成20年10月5日
会場：全興寺と旧平野郷周辺（大阪市平野区）
参加者数：54名

地域連携企画のプレ行事として、9月に来日したばかりの関西大学留学生とともに、「大阪を探検しよう！」と題し、大阪市平野区の旧平野郷を中心としたフィールドワークを行った。留学生を6班に分け、各班にP.D.・R.A.や補助員として大学院生・学部学生を配置して班ごとに現地踏査した。各自の関心にしたがって写真撮影を行い、地域連携企画の第

2部での発表のために、そのうちの1枚を選んで、レポートを作成した。



全興寺門前にて

ワークショップ

・第5回：「紙芝居は楽しいぞ！」

日時：平成20年5月28日

会場：なにわ・大阪文化遺産学研究センター
文化遺産・実習展示室／博物館前広場

参加者数：111名（第1部）

第1部：講演

鈴木常勝氏（紙芝居師・立命館大学非常勤講師）

「紙芝居屋がやってきた！」

第2部：鈴木氏による紙芝居の実演

近年、街かどから姿を消しつつある紙芝居に焦点を当て、大阪市平野区などで現在も活動続ける鈴木常勝氏を迎え、講演と実演を行った。第1部では、紙芝居の歴史や街かどで紙芝居を続ける苦労話などが披露された。第2部では、キャンパス内で紙芝居の実演を行った。昼休み時間であったこともあり、幅広い年齢層の多くの方が足を止めて見入っていた。

ワークショップにあたっては、参加者に配布する「てびき」を、P.D.・R.A.で作成した。内容と執筆者は以下の通りである。

1. 紙芝居の歴史をひもとく（藤岡・櫻木）
2. 紙芝居を楽しむための“キーワード”（影山）
コラム：紙芝居のしくみ
3. 紙芝居のお菓子について（和住）
コラム：お菓子（水あめ・ソースせんべ）の
値段について

編集：松永・中尾



実演をまじえての講演（第1部）



紙芝居に見入る学生たち

・第6回「サロン・ド・西尾家—吹田の文化遺産—」

日時：平成21年3月14日

会場：吹田市コミュニティーセンター／旧西尾
家住宅（吹田文化交流館・吹田市）

参加者数：50名

第1部：講演

青山賢信氏（大阪工業大学名誉教授）

「旧西尾家住宅（吹田文化交流館）の建築」

第2部：旧西尾家住宅の現地見学

関西大学が所在する吹田市内の文化遺産に焦点を当てたワークショップを企画し、仙洞御料庄屋としての系譜をひく旧西尾家住宅（吹田文化交流館）をテーマとして開催した。第1部では、建築学の立場から旧西尾家住宅の調査に携わってきた青山賢信氏が、江戸時代から明治・大正期にかけての旧西尾家住宅の歴史について講演を行った。第2部では、旧西尾家住宅を現地見学した。参加者を5班に分けて、班ごとに旧西尾家住宅のボランティアガイドの方による案内によって邸内を見学した。各班にはP.D.・R.A.と補助員として関西大学の学部生を配置した。

ワークショップにあたっては、参加者に配布する

「てびき」を、P.D・R.A.で作成した。内容と執筆者は以下の通りである。

吹田村と西尾家（和住）

西尾家ゆかりの茶家「藪内流」（中尾）

武田五一（和住）

貴志康一（藤岡）

牧野富太郎（和住）

建築用語解説（和住）

編集：和住・櫻木



青山氏の講演



旧西尾家住宅の見学（茶室「積翠庵」）

NOCHSレクチャーシリーズ

- ・第7回：「なにわの食文化～「天下の台所」からみる日本食～」

日時：平成20年7月3日

会場：なにわ・大阪文化遺産学研究センター
文化遺産実習・展示室

参加者数：102名

熊倉功夫氏（林原美術館館長・国立民族学博物館名誉教授）

「日本料理の歴史」

山下満智子氏（大阪ガスエネルギー・文化研究

所副主任）

「モダン大阪の台所」

センターで取り組んでいる「食文化」について、日本食の歴史の変遷と近代大阪の食文化の変化をテーマに行った。熊倉氏・山下氏ともに、日本料理の原点への回帰と旧来の食生活への見直しの重要性を説いた。

当日は、ポスターセッションを設置し、食文化に関するさまざまな活動を紹介した。



フロアとの議論

文化遺産視察

日時：平成20年10月30日～11月1日

今年度は、第5回文化遺産学フォーラムで取り上げた山形県の最上川周辺を中心に視察した。

最上川では、「舟運と水が育んだ農と祈り、豊穡な大地」として世界遺産の暫定リスト登録を目指して活動中で、その景観について視察するとともに、江戸時代に北前船の寄港地であった酒田市や、天王寺舞楽の系譜をひく林家舞楽を伝える谷地八幡宮など、大阪と文化的なつながりが深い地域を視察した。

<行程>

10月30日

8：20 大阪伊丹空港集合

9：00 大阪伊丹空港発

10：15 仙台空港着

13：00 戸沢藩船番所（山形県最上郡戸沢村）
～最上川の景観を船上より視察

15：30 酒田市内視察（本間家旧本邸・山居倉庫・庄内米歴史資料館など）

10月31日

9：00 尾花沢市内視察（養泉寺など松尾芭蕉関連の旧蹟）

- 10:30 大石田町内視察（大石田最上川舟役所跡
大門と堀蔵・大石田町歴史民俗資料館・
聴禽書屋など）
- 11:30 村山市内視察（「最上川三難所（隼・基
点）」と景観）
- 13:00 河北町内視察（紅花資料館・谷地八幡宮）
- 15:00 寒河江市内視察（慈恩寺など）
- 11月1日
- 9:30 山形市内視察（立石寺・山寺芭蕉記念館
など）
- 13:30 松島視察（宮城県松島町）
- 16:00 東北歴史博物館視察（宮城県多賀城市）
- 19:05 仙台空港発
- 20:30 大阪伊丹空港着

文化遺産学交流会

・第1回「東北学となにわ・大阪文化遺産学」

日時：平成20年10月17日

会場：なにわ・大阪文化遺産学研究センター
文化遺産・実習展示室

参加者数：15名

菊地和博氏（東北芸術工科大学准教授）

「文化による地域づくりの取り組み」

岸本誠司氏（東北文化研究センター専任講師）

「東文研アーカイブスの構築と活用について」

櫻木 潤 (P.D.)

「なにわ・大阪文化遺産学研究センターと『文
化遺産学』」

内田吉哉（特別任用研究員）

「なにわ・大阪文化遺産学における地域連携」

今年度は、他大学の研究機関との交流をセンター
の方針とし、文化遺産学交流会を開催した。

第1回目には、平成14年度よりオープン・リサー
チ・センター整備事業に採択され、山形県をフィー
ルドとして活動する東北芸術工科大学東北文化研究
センターとの交流会を行った。地域の文化遺産に焦
点を当てて研究活動を行っている点では共通してい
るが、それらをいかに研究課題とするかについては
異なる点も多く、文化遺産への取り組みにおいては、
地域の特性を活かした方法が必要であることが議論
された。



菊地氏と岸本氏による活動の紹介

第2回「神戸大学人文学研究科地域連携センターと 関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究セン ター」

日時：平成21年3月7日

会場：なにわ・大阪文化遺産学研究センター 文
化遺産・実習展示室

参加者数：26名

奥村 弘氏（神戸大学地域連携センター事業責任者）

坂江 渉氏（神戸大学地域連携センター担当教員）

岡絵里子氏（関西大学環境都市工学部准教授）

藪田 貫（センター総括プロジェクトリーダー）

内田吉哉（センター特別任用研究員）

ワークショップ「水損史料の応急処置実習」

河野未央氏（神戸大学地域連携センター研究員）

第2回には、平成14年より、兵庫県内の自治体と
の連携事業を中心に活動する神戸大学大学院人文学
研究科地域連携センターとの交流会を行った。第1
部では双方の活動理念を、第2部では具体的な活動
内容を報告するとともに、兵庫県丹波市を中心に活
動する関西大学現代GP「農山村集落との交流型定
住による故郷づくり」について岡氏が紹介した。ま
た、神戸大学地域連携センターが、歴史資料ネット
ワークとともに進めている被災資料救済活動のひと
つである水損資料の応急処置についてワークショッ
プを行った。地域の文化遺産に焦点を当てるとい
う研究対象は共通しているが、連携の対象や手法な
どでは異なる点もあり、今後は双方の活動の特長を活
かし、連携する方向性が模索された。



奥村氏と藪田総括リーダー



ワークショップで水損史料の応急処置を学ぶ

センター来訪者

5月～3月

岸本邦雄氏・吉田珠己氏（八尾市教育委員会文化財課）
…八尾市旧植田家住宅の史料館整備のための打ち合わせおよび植田家総合調査報告書編集会議のため来館。

6月

星井渉氏（NHK大阪放送局番組制作部）
…「豊臣期大坂図屏風」の調査・研究についての取材のため来館。

6月～3月

藤岡正憲氏（教育出版株式会社 関西支社）
…副読本作成の打ち合わせのため来館。

11月

Erich Lessing（エリック・レッシング）氏（写

真家）

…「豊臣期大坂図屏風」現地撮影者として陶板および複製屏風の視察のため来館。

Arjan van der Werf（アリアン・ファンデルウェルフ）氏（ルーヴァン大学東方図書館司書）

…博士論文作成のため来学。センター招聘研究者室を利用。

2月～3月

Doreen Mueller（ドリーン・ミュラー）氏（ロンドン大学大学院博士課程）

…博士論文作成のため非常勤研究員として受け入れ。センター招聘研究者室を利用。

3月

木村正二氏（NPO法人HICALY）

…「安中新田会所跡旧植田家住宅」の指定管理者として同館運営にあたる覚書調印のため来館。

出版物

①年次報告書『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2008』（2009年3月31日刊行）

②なにわ・大阪文化遺産学叢書

9『長島侯増山雪斎独楽園賀詞帖』

（2009年3月31日刊行）

10『大坂代官 竹垣直道日記（三）』

（2009年3月31日刊行）

11『八尾安中新田会所跡 植田家の文化遺産』

（2009年3月31日刊行）

12『金属製品の保存処理—本山コレクションを対象に— 考古遺跡の分析学的研究』

（2009年3月31日刊行）

③NOCHS Occasional Paper

No.7『第4回文化遺産学フォーラム関連企画

企画展 なにわ・大阪の文化力～大阪文化遺産学の源流と系譜を辿る～』

（2008年10月11日刊行）

No.8『第7回NOCHSレクチャーシリーズ なにわの食文化—「天下の台所」からみる日本食—』（2009年3月24日刊行）

- ④News Letter『難波潟』（詳細はセンター通信参照）
No.9（2008年7月15日刊行）
No.10（2008年10月30日刊行）
No.11（2009年2月28日刊行）

- ⑤NOCHS MAIL（詳細はセンター通信参照）
第41号～第55号

⑥報告書

- 『国際シンポジウム報告書 人びとの暮らしと文化遺産—中国・韓国・日本の対話—』
(2008年11月30日刊行)
- 『国際シンポジウム報告書 新発見「豊臣期大坂 図屏風」』
(2009年3月31日刊行)
- 『調査報告書 上町台地暮らしの歳時記』
(2009年3月31日刊行)

研究進捗状況報告の結果

昨年度提出した「研究進捗状況報告書」にもとづく中間評価の結果について、私立大学戦略的研究基盤形成支援検討会委員よりAAの評価を得た。特別プロジェクト「豊臣期大坂 図屏風」の調査・研究は「特筆すべきこと」とされ、「今後とも、『新しい学問分野としての文化遺産学の構築』を見据えて、プロジェクトが推進されるよう希望する」との総合所見を得た。

外部資金の獲得

- ・独立行政法人国際交流基金「平成20年度日本文化紹介派遣（助成）」
高橋隆博（センター長）
- ・財団法人サントリー文化財団 2008年度「人文科学、社会科学に関する研究助成」
高橋隆博（センター長）
- ・平成20年度科学研究費補助金 基礎研究（c）
北川博子（研究員）「上方役者絵の国内外所蔵調査とデータベース化の基礎的研究」
吉田晶子（研究員）「近代化以前の鋳物業の民俗技術と営業形態に関する研究」
- ・上町台地マイルドHOPEゾーン協議会（上町台地における自然・歴史・文化に関する調査研究助成）
内田吉哉（特別任用研究員）「上町台地の文化遺産をとりまく景観とその変遷—関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター所蔵『牧村史陽氏旧蔵写真』に見る史跡・名所・寺社—」
- ・日本私立学校振興・共済事業団（学術研究振興資金（若手研究者奨励金））
櫻木 潤（P.D.）「金石文研究の可能性—金石文資料への文化遺産学的アプローチ」

各プロジェクトの活動報告

祭礼遺産研究プロジェクト

①大阪天満宮および今宮戎社の祭礼に関する調査・記録、研究。

近江晴子研究員を中心に進められている大阪天満宮史料調査は、慶応元年から明治20年までの大阪天満宮所蔵文書の翻刻が行われ、その成果を来年度に『なにわ・大阪文化遺産学叢書 大阪天満宮夏大祭 秋大祭天神祭と流鏝馬神事—大阪天満宮文書より— 慶応元年～明治二十年』として刊行予定である。

また、前年度に引き続き大阪府下の祭礼・民俗行事の現地調査と写真撮影による記録を行った。

- 5/4 泉佐野市日根野 日根神社・まくら祭り
- 5/8 豊能郡能勢町長谷 八阪神社・おん田
- 6/14 大阪市住吉区 住吉大社・御田植神事
- 7/12 大阪市天王寺区 生國魂神社・いくたま夏祭
- 7/21 大阪市内夏祭（坐摩神社・難波神社）
- 7/21 守口市 寺方提灯踊り
- 7/25 守口市 佐太天神宮
- 10/12 泉大津市 泉穴師神社 飯ノ山神事



泉佐野市 日根神社・まくら祭り



守口市 寺方提灯踊り

②アメリカ東部での文化遺産と文化遺産学の調査。

今年度は、他大学の研究機関や大阪以外の地域との交流を方針とし、今年度に開催した第5回文化遺産学フォーラムで取り上げた山形県の最上川を中心とした地域への視察調査を行った（各研究プロジェクトの共通事項。詳細は全体の活動報告を参照）。

③学部学生・大学院生の協力を得て、中間報告の成果を関西大学博物館などで巡回展示する。

中間報告の成果をふまえて、これまでのセンターの調査・研究の総括として、来年度に関西大学博物館において「なにわ・大阪文化遺産学研究センター5年の軌跡（仮）」として企画展を開催する。展示にあたっては、学部学生・大学院生の協力を得る予定である。

④文化遺産インターンシップに学部学生・大学院生を参加させ、卒業論文・修士論文の作成を支援する。

昨年度に引き続き、黒田研究員が指導し、R.A.藤岡の補助のもと、『神社を中心とする村落生活調査報告（三）大阪府—堺市・岸和田市・泉北郡・泉南郡— 兵庫県』の刊行を進めているが、調査・翻刻作業に、調査補助員として大学院生を参加させている。また、大谷研究員が指導し、R.A.和住の補助のもと、『近代大阪の神社関係新聞記事集成（仮）』の刊行を進めているが、調査・翻刻作業に、調査補

助員として学部学生が参加した。

今年度も、上記の調査に参加した学部学生や大学院生は、その成果を卒業論文・修士論文に盛り込んでいる。

⑤研究例会と大阪文化遺産学フォーラムの開催ならびにR.A.に報告の機会を与える。

今年度で開催した第5回文化遺産学フォーラム「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」では、R.A.の和住・藤岡が、淀川資料館への出張調査や最上川周辺の文化遺産への取り組みなどの調査を行った上、フォーラムの企画・運営を担当した。

研究例会

第1回：平成20年6月17日

佐々木康人（関西大学非常勤講師）「北摂の文化遺産」

内田吉哉（特別任用研究員）「牧村史陽旧蔵写真に見る北摂の文化遺産」

…佐々木氏からは江戸時代より生産されている「池田炭」について、内田氏からは、当センターの所蔵する郷土史家牧村史陽旧蔵写真の中から北摂地方を中心にして撮影された写真の紹介があった。



佐々木康人氏



内田特別任用研究員

第2回：平成21年1月22日

森本安紀（関西大学大学院）「『神社を中心とする村落生活調査報告』にみる大阪の年頭行事について」

藤岡真衣（R.A.）「『神社を中心とする村落生活調査報告』にみる泉州の祭礼について」

…初年度から調査・研究をすすめている大阪市史編纂所蔵の津田秀夫氏旧蔵『神社を中心とする村落生活調査報告』を活用した研究報告を行った。森本氏は、大阪府全体にみる年中行事の自治体史における記述が『神社を中心とする村落生活調査報告』にどのように影響したのかを考察し、藤岡氏は平成21年度刊行予定の「(三) 大阪府－堺市・岸和田市・泉北郡・泉南部－ 兵庫県」の調査から泉州地方の年中行事と祭礼について報告した。



森本安紀氏



R.A. 藤岡

⑥『大阪文化遺産学年報4』の発刊。

藤井裕之研究員は、今年度の年次報告書『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2008』に、研究論文「大阪府内の万石通し」を執筆し、R.A.和住・藤岡が図書紹介を執筆した。

⑦他のプロジェクトと共同で中学校用副読本『映像による大阪文化遺産』作成に着手する。

小・中学生用副読本として、「なにわの伝統野菜」・「吹田の文化遺産」をテーマとして採用し、黒田研究員を中心として、他の研究プロジェクトと共同で作成に着手した。今年度は、「なにわの伝統野菜」の栽培に取り組む大阪市内の小学校への調査や、吹田市内の文化遺産の所在調査などを行った。「吹田の文化遺産」については映像による副教材を制作する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

⑧その他

a. 「大阪の夏祭りカレンダー」の作成と配布

平成18年度より作成している「大阪の夏祭りカレンダー」を今年度も作成し、配布した。告知はセンターのホームページや新聞で行った。今年度も申し込みが多数あり、先着200名にカレンダーを配布した。また、今年度開催のセンター研究行事や学内の行事の参加者にも配布した（別紙参照）。

b. 受託研究（上町台地マイルドHOPEゾーン協議会） 「上町台地暮らしの歳時記調査」

平成19年より上町台地マイルドHOPEゾーン協議会が進めている「上町台地の寺社や生活にかかわる年中行事」調査において、今年度は民俗学的手法による調査を行うことになり、同協議会からの受託研究として、調査・研究を行った。

黒田研究員の指導のもと、P.D.櫻木が協議会等と調査日程の交渉を担当し、R.A. 和住・藤岡のほか、学部学生や大学院生も調査補助員として参加し、年中行事の聞き取り調査を行った。調査の成果は上町台地マイルドHOPE協議会主催の報告会で発表する予定である。

c. 大阪市平野区杭全神社総合調査

10月2日に他の研究プロジェクトと合同で、大阪市平野区の杭全神社総合調査のための予備調査を行った。杭全神社が所蔵する什・宝物類のほか、境内外の石碑や石造物について調査した。来年度、本格的に調査に着手し、宝物図録を刊行する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

d. 「豊臣期大坂図屏風」国際シンポジウムへの参加
平成20年8月21日にオーストリア・グラーツ市で開催された「豊臣期大坂図屏風」の国際シンポジウムに黒田研究員が参加し、「『豊臣期大坂図屏風』にみる住吉大社の夏祭りの行列」との報告を行い、パネリストとして議論に加わった。また、エッゲンベルク城での屏風の現状調査を行った（詳細は特別プロジェクト参照）。

<p>6.20 東條祭(長島町)7月1日</p> <p>○東條祭(長島町)東條(長島町) 宝島五福門待 ○徳島大社(長島)・水鏡式 ○高島神社・東の輪廻(長島町) ○高島神社(長島町) ○大島神社(長島町) ○高島神社(長島町) ○高島神社(長島町)</p>	<p>6.21 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.22 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.23 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.24 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.25 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.26 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.27 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.28 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.29 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.30 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>
<p>6.27 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.28 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.29 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.30 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.31 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.32 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.33 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.34 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.35 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.36 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>	<p>6.37 長門郡神社・長門郡(長門郡)7月1日</p> <p>○長門郡 ○長門郡神社・長門郡(長門郡)</p>

2008年 大阪の夏祭りカレンダー

生活文化遺産研究プロジェクト

①社寺に神供される魚類・野菜・酒等の原産地と生産組織、その流通形態と配給組織について調査する。

初年度から進めている社団法人大阪市中央卸売市場本場市場協会資料室所蔵の『鷺池家文書』の調査について、昨年度は「弘化三年四番諸覚帳」・「文化九年年忌葬礼覚日記」・「(天保三年諸覚帳)」の三冊を写真撮影し、データ化する作業を行った。

今年度は、これらのデータをもとに研究をすすめ、森本幾子研究員が年次報告書に研究ノート「近世大坂商家における追善供養と食—雑喉場魚問屋神崎屋平九郎家の追善供養—」を執筆した。

また、同資料室室長・酒井亮介研究員のこれまでの研究をまとめた著書『雑喉場魚市場史—大阪の生魚流通—』（成山堂書店）が刊行された。

②辻合喜太郎氏収集河内木綿コレクションおよび復元工芸品の巡回展示を、関西大学博物館などで行う。

中間報告の成果をふまえて、これまでのセンターの調査・研究の総括として、来年度に関西大学博物館において「なにわ・大阪文化遺産学研究センター5年の軌跡（仮）」として企画展を開催する予定である。

③アメリカ東部の大学・博物館に学芸遺産と文化遺産学の調査に出かける。

今年度は、他大学の研究機関や大阪以外の地域との交流を方針とし、今年度に開催した第5回文化遺産学フォーラムで取り上げた山形県の最上川を中心とした地域への視察調査を行った（各研究プロジェクトの共通事項。詳細は全体の活動報告を参照）。

④学部生・大学院生を文化遺産インターンシップに参加させ、卒業論文・修士論文の作成を支援する。

八尾市植田家什器調査および関西大学博物館などの調査について大学院生に積極的に参加してもらい、資料の取り扱いや調査方法を習熟する機会を持たせている。また、調査成果を取り入れた卒業論文・修士論文の作成を支援している。

⑤研究例会（6月）と文化遺産学フォーラム（1月）を開催し、RA・PDに発表の機会を与える。

10月に、他の研究プロジェクトと共同で、第5回文化遺産学フォーラム「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」を開催した。

研究例会

第1回：平成20年7月7日

森下正博氏（研究協力者）

「なにわ伝統野菜（在来種）の衰退・復活の経緯とこれから」

…伝統野菜（在来種）が衰退して交配種に取って代わられた経緯と、再び産地の人びとの取り組みによって復活を遂げている現状、さらに食文化や環境を次の世代へ伝えていくうえで伝統野菜の持つ意義について報告した。



第2回：平成20年12月20日

妻木宣嗣（研究員）

「神社空間の「にぎわい」と人の「ふるまい」—祭礼時の参道デザインと、人の行動を素材に一—」



…道明寺天満宮での実測調査の結果から、参拝者の行動パターン・「ふるまい」によって、祭礼空間における「にぎわい」が創出されていることを報告した。

⑥プロジェクト合同で、中学生用の副読本『映像による大阪文化遺産』の作成に着手する。

小・中学生用副読本として、「なにわの伝統野菜」・「吹田の文化遺産」をテーマとして採用し、黒田研究員を主任として、他の研究プロジェクトと共同で作成に着手した。今年度は、「なにわの伝統野菜」の栽培に取り組む大阪市内の小学校への調査や、吹田市内の文化遺産の所在調査などを行った。「吹田の文化遺産」については映像による副教材を制作する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

⑦『大阪文化遺産学年報4』の公刊。

森本幾子研究員が、今年度の年次報告書『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2008』に、研究ノート「近世大坂商家における追善供養と食一雑喉場魚問屋神崎屋平九郎家の追善供養」および新収資料紹介・図書紹介を執筆した。また、R.A.石本が調査報告「International conference:Heritage in Asia（国際学会：アジアの文化遺産）」および図書紹介を執筆し、R.A.影山が図書紹介を執筆した。

⑧その他

a. 保存処理分析作業室における調査・研究

<保存処理部門>

関西大学博物館が所蔵する本山コレクション鉄製品を対象として、保存処理を実施するため選定した資料を借用し、保存処理を実施した。

<分析部門>

考古遺跡から採取した材のベンゼン—液体シンチレーション法による放射性炭素年代測定を実施した。また昨年度から引き続き安定同位体比質量分析装置のキャリブレーションを行い、今後利用できる資料の蓄積を図っている。

保存処理部門・質量分析部門での調査・研究の成果は、『なにわ・大阪文化遺産学叢書12 金属製品の保存処理—本山コレクションを対象に— 考古遺跡の分析学的研究』として刊行した。

b. 八尾市植田家総合調査

初年度から継続して調査研究を進めてきた植田家の什器についてデータ整理を行なった。3Dレーザー・スキャニングシステムを運用して行なった植田家の建物外観や蔵、庭園などのスキャニングデータをまとめた。また、来年度に史料館として開館する旧植田家住宅の整備完成にともない、八尾市立久宝寺小学校に保管されていた什器類について、搬出のための点検作業を、非常勤研究員の宮元正博を中心に、学部学生・大学院学生の協力を得て行った。なお、調査報告書『植田家を語るものたち—安中新田跡会所旧植田家住宅の文化遺産—』および『なにわ・大阪文化遺産学叢書11 八尾安中新田会所跡 植田家の文化遺産』に、米田文孝研究員（工芸品）・長谷洋一研究員（書画・扁額）・森隆男研究員（什器）・李熙連伊研究員（河内木綿）が執筆した。



久宝寺小学校での点検作業

c. 大阪市平野区杭全神社総合調査

10月2日に他の研究プロジェクトと合同で、大阪市平野区の杭全神社総合調査のための予備調査を行った。杭全神社が所蔵する什・宝物類のほか、境内外の石碑や石造物について調査した。来年度、本格的に調査に着手し、宝物図録を刊行する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

d. 住まいと伝統技術についての調査・研究

伝統的建造物と住居に関わる伝統技術の出張調査を行ない、その成果をもとに他プロジェクトと共同で、平成21年3月14日に第6回ワークショップ「サロン・ド・西尾家—吹田の文化遺産—」を開催した。出張調査は以下の通りである。

- ・大阪くらしの今昔館（平成20年10月23日）
- ・まちづくり学習会「吹田の技」、浜屋敷・吹田歴

史文化まちづくりセンター（平成20年11月22日）
・高林家住宅（重要文化財・堺市）
（平成20年12月12日）

e. 「なにわの伝統野菜」を中心とした学校教育との連携

昨年度に引き続き、今年度も、センター棟北側の農園において、「なにわの伝統野菜」の栽培を行った（勝間南瓜・毛馬胡瓜・玉造黒門越瓜・泉州水茄子・田辺大根・天王寺蕪・吹田慈姑）。栽培にあたっては、祭礼遺産研究プロジェクトR.A.藤岡・歴史資料遺産研究プロジェクトR.A.松永の協力を得た。

学校教育との連携については、小・中学生用副読本として、「なにわの伝統野菜」・「吹田の文化遺産」をテーマとして採用し、祭礼遺産研究プロジェクトの黒田研究員を主任として、他の研究プロジェクト

と共同で作成に着手した。今年度は、「なにわの伝統野菜」の栽培に取り組む大阪市内の小学校への調査や、吹田市内の文化遺産の所在調査などを行った。（各研究プロジェクト共通事項）。

f. 関西大学ミュージアム講座

関西大学博物館では、毎年学内外の研究者を招いて、ひろく地域の人びとに文化遺産についての講演を行なうミュージアム講座を開催している。今年のテーマは「なにわの文化遺産（三）」で、本研究プロジェクトの森下正博氏（研究協力者）が講演を行った。

7月19日（土）：森下正博氏（センター研究協力者）
「伝統野菜の今日的意義—知っていますか、なにわの伝統野菜—」

学芸遺産研究プロジェクト

①補充調査を近隣の社寺（服部天満宮：豊中市、垂水神社：吹田市、枚岡神社：東大阪市など）で行う。

10月2日に他の研究プロジェクトと合同で、大阪市平野区の杭全神社総合調査のための予備調査を行った。杭全神社が所蔵する什・宝物類のほか、境内外の石碑や石造物について調査した。来年度、本格的に調査に着手し、宝物図録を刊行する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

②在坂武士の学芸に関する日記・記録の収集と読解を進め、修士・学位論文の作成を支援する。

昨年度に引き続き、『竹垣直道（御代官）日記』の弘化二・三年分を翻刻した『なにわ・大阪文化遺産学叢書10 大坂代官竹垣直道日記（三）』を刊行した。刊行にあたっては、藪田貫研究員の指導のもと、歴史資料遺産研究プロジェクトRA松永や調査補助員として大学院生の協力を得た。同書には、松永のほか大学院生による論稿を収録している。また、『なにわ・大阪文化遺産学叢書 大坂代官竹垣直道日記（四）』の刊行にむけて、学部学生を調査補助員として索引の作成作業に着手した。

③アメリカ東部の大学・博物館に学芸遺産と文化遺産学の調査に出かける。

今年度は、他大学の研究機関や大阪以外の地域との交流を方針とし、今年度に開催した第5回文化遺産学フォーラムで取り上げた山形県の最上川を中心とした地域への視察調査を行った（各研究プロジェクトの共通事項。詳細は全体の活動報告を参照）。

④中間報告書をもとに大阪学芸遺産の巡回展示を関西大学博物館などで行う。

中間報告の成果をふまえて、これまでのセンターの調査・研究の総括として、来年度に関西大学博物館において「なにわ・大阪文化遺産学研究センター5年の軌跡（仮）」として企画展を開催する予定である。

⑤文化遺産インターンシップに学部学生・大学院生を参加させ、卒業論文・修士論文の作成を支援する。

本研究プロジェクトとして調査を進めている関西大学総合図書館所蔵の鬼洞文庫一枚摺に関して、調査補助員として大学院生を参加させて目録の作成を行い、修士論文の作成を支援した。

⑥他のプロジェクトと共同で、文化遺産学フォーラム・国際シンポジウムを開催、RAに発表の機会を

与える。

10月に、他の研究プロジェクトと共同で、第5回文化遺産学フォーラム「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」を開催した。

また、平成20年8月21日にオーストリア・グラーツ市で開催された「豊臣期大坂図屏風」の国際シンポジウムに藪田研究員が参加し、「日本の屏風絵とヨーロッパライデン・グラーツ・エボラ・ローマー」との報告を行い、パネリストとして議論に加わった。また、エッゲンベルク城での屏風の現状調査を行った（詳細は特別プロジェクト参照）。

研究例会

第1回：平成20年7月7日

藤田真一（研究員）

「伊勢長島「独楽園」の環境—増山雪斎と大名庭園—」

…当センター所蔵の「独楽園賀詞帖」を素材に、賀詞の揮毫経緯について木村兼葎堂を中心に報告した。また、大名庭園のあり方についても言及した。



第2回：平成20年1月19日

中尾和昇（RA）

「馬琴の見た大坂—鬼洞文庫一枚摺を手がかりに



—」

…関西大学図書館所蔵の鬼洞文庫一枚摺を素材に、曲亭馬琴の京坂旅行を視覚的にとらえることを目的にした報告を行なった。また、馬琴と上方絵師・狂歌壇との関係も明らかにした。

⑦他のプロジェクトと共同で中学校生用の副読本『映像による大阪文化遺産』作成に取り掛かる。

小・中学生用副読本として、「なにわの伝統野菜」・「吹田の文化遺産」をテーマとして採用し、黒田研究員を中心として、他の研究プロジェクトと共同で作成に着手した。今年度は、「なにわの伝統野菜」の栽培に取り組む大阪市内の小学校への調査や、吹田市内の文化遺産の所在調査などを行った。「吹田の文化遺産」については映像による副教材を制作する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

⑧学芸遺産と教育・地域社会に関する報告書草案の作成。

項目⑦にあるように、今年度から小・中学生用副読本の作成に着手したが、「吹田の文化遺産」において、吹田市内における学芸遺産について取り上げる予定である。

⑨『大阪文化遺産学年報4』の公刊。

鶴崎裕雄研究員が、今年度の年次報告書『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2008』に、研究論文「戦国期摂津国における近衛家領」を執筆した（共著）。また、山本卓研究員が新収資料紹介、R.A.中尾が新収資料紹介および図書紹介を執筆した。

⑩その他

a. 関西大学総合図書館所蔵鬼洞文庫一枚摺の調査・研究

近代大阪の郷土史家出口神暁氏の蔵書である鬼洞文庫のうち、大坂や泉州を中心とした一枚摺の収集品について調査・研究を進めた。基礎調査としての目録を作成し、全点について写真撮影を行った。来年度、データベースとして、センターのホームページに掲載する予定である。

b. 関西大学ミュージアム講座

関西大学博物館では、毎年学内外の研究者を招いて、ひろく地域の人びとに文化遺産についての講演

を行なうミュージアム講座を開催しているが、今年度のテーマは「なにわの文化遺産（三）」であった。

本研究プロジェクトからは、山本研究員と明尾圭造研究員が講演を行なった。

7月12日（土）：山本卓（研究員）

歴史資料遺産研究プロジェクト

①補充調査を近隣の社寺（服部天満宮：豊中市、垂水神社：吹田市、枚岡神社：東大阪市など）で行う。

10月2日に他の研究プロジェクトと合同で、大阪市平野区の杭全神社総合調査のための予備調査を行った。杭全神社が所蔵する什・宝物類のほか、境内外の石碑や石造物について調査した。来年度、本格的に調査に着手し、宝物図録を刊行する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

②関西大学図書館・博物館所蔵歴史資料の調査・検討結果を取りまとめ、データベース化する。

平成19年3月刊行の『なにわ・大阪文化遺産学叢書7 木崎愛吉旧蔵本山コレクション金石文拓本選』に収録した資料を中心に、関西大学博物館所蔵本山コレクション金石文拓本のデータベース化の作業を進めている。今年度、P.D.櫻木は、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金（若手研究者奨励金）に「金石文研究の可能性－金石文資料への文化遺産学的アプローチ」が採択され、データベース化の基礎となる目録を作成した。

③文化遺産インターンシップに学部学生・大学院生を参加させ、卒業論文・修士論文の作成を支援する。

八尾市植田家総合調査について学部生・大学院生に積極的に参加してもらい、資料の取り扱いや調査方法を習熟する機会を持たせている。また調査成果を取り入れた卒業論文・修士論文の作成を支援している。

④研究例会とともに大阪文化遺産学フォーラムを開催し、RAに報告の機会を与える。

今年度で開催した第5回文化遺産学フォーラム「水がむすぶ文化遺産～最上川と淀川～」では、R.A.松永が、淀川資料館への出張調査や最上川周辺

「近世後期大坂の出版文化」

7月26日（土）：明尾圭造（研究員）

「浪速の町絵師一菅楯彦の画業とその社会的背景一」

の文化遺産への取り組みなどの調査を行った上、フォーラムの企画・運営を担当した。

また、平成20年8月21日にオーストリア・グラーツ市で開催された「豊臣期大坂図屏風」の国際シンポジウムに北川央研究員が参加し、「16世紀末から17世紀初頭の大坂城」との報告を行い、パネリストとして議論に加わった。また、エッゲンベルク城での屏風の現状調査を行った（詳細は特別プロジェクト参照）。

研究例会

第1回：平成20年6月30日

吉井克信（研究員）

「寺内町研究の現状と課題－真宗史の立場を中心に－」

…近年、研究が盛んに行われつつある寺内町研究について、寺内町に注目する理由と、その視点の有効性や寺内町の類型など、現在の研究状況と今後の課題を報告した。



第2回：平成20年12月18日

浜野 潔（研究員）

「近世三都の歴史人口学－江戸・大坂・京都－」

…歴史人口学の視点から、江戸時代の江戸・大坂・京都の都市人口の動態や、京都の個別町における人口動態や、奉公人の雇用や解雇の問題などが報告された。



⑤アメリカ東部に日本関係歴史資料遺産調査に出かける。

今年度は、他大学の研究機関や大阪以外の地域との交流を方針とし、今年度に開催した第5回文化遺産学フォーラムで取り上げた山形県の最上川を中心とした地域への視察調査を行った（各研究プロジェクトの共通事項。詳細は全体の活動報告を参照）。

⑥大阪府下の街道・堂社関係資料の収集とそのデータベース化。

本山コレクション金石文拓本のうち大阪府下の道標・寺社の燈籠について調査し、街道関係文献資料の収集を進めた。

⑦中学生用副読本『映像による大阪文化遺産』の作成を他班と合同で進める。

小・中学生用副読本として、「なにわの伝統野菜」・「吹田の文化遺産」をテーマとして採用し、黒田研究員を主任として、他の研究プロジェクトと共同で作成に着手した。今年度は、「なにわの伝統野菜」の栽培に取り組む大阪市内の小学校への調査や、吹田市内の文化遺産の所在調査などを行った。「吹田の文化遺産」については映像による副教材を制作する予定である（各研究プロジェクト共通事項）。

⑧『大阪文化遺産学年報4』の公刊。

RA松永は、今年度の年次報告書『なにわ・大阪文化遺産学研究センター2008』に、資料紹介および図書紹介を執筆した。

⑨その他

a.八尾市植田家総合調査

初年度から継続して調査・研究を進めてきた八尾市植田家総合調査については、平成21年5月に旧植田家住宅が史料館として開館することになり、報告書の作成などの総合調査のとりまとめを本研究プロジェクトで担当することになった。

報告書の作成にあたっては、八尾市教育委員会文化財課とともに5月から平成21年3月にかけて編集会議を開催した。報告書には、小谷利明研究員（旧八尾安中新田会所 植田家の歴史）、P.D.櫻木（調査の手順・経過）、R.A.松永（分野別解説の総論）が執筆した。なお、調査の成果は、『なにわ・大阪文化遺産学叢書11 八尾安中新田会所跡 植田家の文化遺産』として刊行した。

また、史料館に新設される収蔵庫へのセンターおよび八尾市立久宝寺小学校保管資料の搬出にともなって、センター保管資料（書籍、書画・扁額類）の目録照合作業を、学部学生・大学院生の協力を得て行い、平成21年3月末に搬出した。古文書類の調査については、次年度以降も継続する予定である。



八尾市植田家資料の搬出作業

2008 年度会議報告

月 日	会 議 報 告
4月16日	第1回推進委員会
4月9日	第1回HQ会議
4月30日	第2回推進委員会
4月30日	第2回HQ会議
5月7日	第1回月例会議
5月10日	第1回合同例会
5月19日	第3回HQ会議
6月4日	第2回月例会議
6月13日	第4回HQ会議
7月8日	第5回HQ会議
7月9日	第3回月例会議
7月9日	第3回推進委員会
8月6日	第4回月例会議
8月8日	第6回HQ会議
8月26日	第7回HQ会議
9月1日	第5回月例会議
9月24日	第1回リーダー会議
10月1日	第6回月例会議
10月8日	第6回月例会議（継続）
11月10日	第8回HQ会議
11月12日	第7回月例会議
12月20日	第9回HQ会議
12月24日	第8回月例会議
1月14日	平成20年度外部評価委員会
1月19日	第2回合同例会
1月21日	第4回推進委員会
2月20日	第9回月例会議
3月9日	第5回推進委員会
3月10日	第10回HQ会議

※HQ会議は、事務局会議です

「なにわの伝統野菜」栽培日誌

昨年度に引き続き、センター棟北側のなにわ実験農園において、「なにわの伝統野菜」を栽培した。ここでは、夏期・冬期に収穫したものを夏野菜・冬野菜とし、それぞれの栽培記録を報告する。

夏野菜の栽培

夏野菜は昨年に続き毛馬胡瓜・勝間南瓜を植え、今年度は新たな試みとして泉州水茄子を栽培した。4月に園芸用の土と肥料を加え、畑の土づくりを行った。5月には、毛馬胡瓜と泉州水茄子の苗を植えた。勝間南瓜は、種から育てた苗を農園に植え替えた。水やりは研究協力者の森下正博氏のアドバイスをうけ、朝と夕方2回、苗と畝に水が十分に浸透するように多めにまき、適宜、液肥や肥料を加えた。毛馬胡瓜と勝間南瓜は、6月以降に蔓と葉が繁茂した。6月下旬から9月上旬にかけて毛馬胡瓜・勝間南瓜・泉州水茄子を収穫し、その後、毛馬胡瓜と勝間南瓜からは種をとった。9月中旬には夏野菜の収穫を終えた。

表1 夏野菜(毛馬胡瓜・勝間南瓜・泉州水茄子)の栽培

月 日	活 動 報 告
4月28日	畑の土づくりをする
5月15日	毛馬胡瓜の苗を植える
6月7日	うどん粉病が胡瓜と南瓜に発生。一部、葉っぱを切り捨てる
6月12日	うどんこ病の対策として、殺菌剤と展着剤の混合4ℓを散布
6月17日	森下正博研究員からアドバイスをいただく
6月23日	液肥をまく
6月25日	毛馬胡瓜を収穫する(2本)
6月26日	うどんこ病の対策として、殺菌剤と展着剤を散布
7月4日	液肥をまく
7月9日	毛馬胡瓜を収穫する(2本)
7月10日	センター畑の草取りをする
7月17日	肥料を入れる
7月29日	毛馬胡瓜(5本)・泉州水茄子(4個)を収穫する
8月1日	毛馬胡瓜(6本)・泉州水茄子(1個)を収穫する
8月2日	毛馬胡瓜(4本)を収穫する
8月6日	森下正博氏から胡瓜の種取りについてアドバイスをいただく 毛馬胡瓜(6本)を収穫する
8月27日	毛馬胡瓜(13本)・勝間南瓜(6個)を収穫する 毛馬胡瓜の栽培が終了する
9月10日	勝間南瓜(5個)を収穫する
9月17日	勝間南瓜(10個)・泉州水茄子(14個)を収穫する 勝間南瓜と泉州水茄子の栽培が終了する 毛馬胡瓜の種を取る

収穫した夏野菜

毛馬胡瓜…38本

勝間南瓜…21個

泉州水茄子…18個



畑の土づくり（4月28日）



毛馬胡瓜の収穫（6月25日）



毛馬胡瓜の苗を植える（5月15日）



勝間南瓜の収穫（8月27日）



森下研究員からアドバイスをいただく（6月17日）



毛馬胡瓜（8月29日）



泉州水茄子（6月23日）



勝間南瓜と泉州水茄子（9月17日）

冬野菜の栽培

冬野菜は、吹田慈姑・天王寺蕪・田辺大根を栽培した。吹田慈姑は、4月に慈姑を鉢に植え、夏には葉を大きく茂らせた。12月に、およそ200個の慈姑を収穫することができた。天王寺蕪と田辺大根は、10月に種まきを行った。種まきから数日後に芽が出て、間引きを行った。12月には、「田辺大根フェスティバル2008」にセンターで栽培した田辺大根をはじめて出品した。1月下旬に天王寺蕪を、3月に田辺大根をそれぞれ収穫した。田辺大根については、一部、昨年栽培した大根から取った種を用いた。その結果、市販の種とかわりなく成長した。センターの畑は、冬期はとくに日当たりが良くないため、冬野菜はゆったりと成長した。

表2 冬野菜(吹田慈姑・天王寺蕪・田辺大根)の栽培

月 日	活 動 報 告
4月28日	吹田慈姑を植える
9月17日	夏野菜の栽培終了後、土と肥料を加え、畑を耕す
10月3日	石灰をまく
10月6日	園芸用の土・腐葉土・牛ふん・石灰を畑に入れ、耕す
10月7日	赤松種苗で田辺大根と天王寺蕪の種を買う
10月9日	園芸用の土・鶏ふんを畑に入れ、畝を作る
10月10日	田辺大根と天王寺蕪の種をまく
10月14日	田辺大根、天王寺蕪の芽が出る
10月24日	田辺大根の芽を間引く
11月13日	天王寺蕪を間引く
11月26日	畑の草取りをする
12月2日	液肥をまく
12月10日	吹田慈姑(200個程)を収穫する 天王寺蕪・田辺大根を間引く
12月14日	「田辺大根フェスティバル2008」に出品する
12月22日	田辺大根に液肥を加える
1月28日	天王寺蕪(31個)を収穫する 田辺大根を間引く
3月4日	田辺大根(17本)を収穫する
3月27日	田辺大根(4本)を収穫する

収穫した冬野菜

吹田慈姑…200個程度
天王寺蕪…31個
田辺大根…21本



田辺大根の種蒔き (10月10日)



収穫間近の天王寺蕪 (1月28日)



大きく成長した吹田慈姑 (10月20日)



天王寺蕪 (1月28日)



吹田慈姑の収穫 (12月10日)



田辺大根の収穫 (3月4日)



吹田慈姑 (12月10日)



田辺大根 (3月4日)